

令和4年度

公立大学法人 業務実績評価書

令和5年8月

福岡県公立大学法人評価委員会

目 次

年度評価の考え方	-----	1 ページ
各法人の評価		
1 公立大学法人九州歯科大学		
(1) 全体評価	-----	3 ページ
(2) 項目別評価	-----	4 ページ
2 公立大学法人福岡女子大学		
(1) 全体評価	-----	9 ページ
(2) 項目別評価	-----	10 ページ
3 公立大学法人福岡県立大学		
(1) 全体評価	-----	15 ページ
(2) 項目別評価	-----	16 ページ

年度評価の考え方

1 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）ごとに、中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- 5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
- 3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
- 2：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
- 1：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。

2 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、5事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和4年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目全て（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

九州歯科大学では、医科歯科連携や多職種連携を見据えた特色ある学生教育や、地域歯科医療従事者に対するリカレント教育を行うとともに、地域の中核病院等での医科歯科連携による地域包括ケアシステム構築や成人歯周病啓発事業を幅広く展開するなど、地域貢献にも注力している。令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響が継続したが、ICTを活用しながら対面授業と遠隔授業を組み合わせて行ったほか、附属病院における診療参加型臨床実習を適正に実施するなど、教育研究の維持向上に取り組んでいる。特に、成人歯周病検診にかかる寄附講座活動を継続し、歯周病リスク検査や歯周病検診事業を幅広く展開している点について、優れていると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の令和4年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

九州歯科大学は、歯科医療の高度化・専門化や高齢化社会の進展等、多様化するニーズへの適切な対応が求められる中、公立大学としての役割を踏まえ、教育研究はもとより地域貢献の充実に向けた取組を積極的に行っている。引き続き、構築した内部質保証体制を機能させながら、これらの取組を一層推進し、地域歯科医療及びその人材育成の中核として発展することを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する実践的な歯科医師及び歯科衛生士の育成（アウトカム基盤型教育の推進）
 - ・新入生スタートアップ学修支援プログラムについて、前年度の検証結果を受け、前期定期試験等の結果に基づいて個別のリメディアル教育を実施するなど、初年次教育の充実に取り組んでいる。
 - ・コロナ禍において、ICTを活用しながら対面授業を実施するとともに、附属病院での診療参加型の臨床実習を継続し、実践的な歯科医療人の育成に力を入れている。
 - ・デジタル歯科用シミュレーターによる実習を充実させ、歯学教育におけるDXの活用を実践した。
 - ・アウトカム基盤型教育のもと、ルーブリックによる評価を実践し、コロナ禍においても総合医科病院での臨地実習を継続して実施することにより学生の学力の向上に取り組んだ。
 - ・学生の成績を分析したうえで学修支援を行い、令和5年の歯科医師国家試験新卒合格率（対出願者数）は全国平均を上回る高水準を維持しており、歯科衛生士国家試験合格率は引続き100%であった。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成
 - ・ルーブリック評価を実施して学生の学びの達成度を適切に評価するなど大学院の教育システムの改善に取り組み、学生の研究活動の質的向上に繋げている。
- (3) 教職員の教育力向上
 - ・ファカルティ・ディベロップメント（FD）部会を中心に、FD研修後に複数回のアンケートを実施して研修効果を検証したほか、学生による授業評価での指摘を教員にフィードバックする等、教育能力の向上に取り組んでいる。
- (4) 意欲のある優秀な人材の確保
 - ・広報学生アンバサダー制度を新設し、広報誌 Platys の編集発刊プロセスに在校生を参加させ広報誌の充実を行うとともに、コロナ

禍において、WEBオープンキャンパスの開催や、高校訪問に代えたパンフレットディスプレイケースの郵送など、意欲のある優れた人材の確保に取り組んでいる。

(5) 学生の学修及び生活支援

- ・コロナ禍において、教職員と保健師、学生相談室のカウンセラーが連携して学生支援体制を強化し、健康問題や精神的な悩みを抱える学生、成績不振の学生等に対して支援を行うとともに、新入生に対しては、初年次ガイダンス等を通じて、円滑に遠隔授業の受講ができるよう修学環境構築の支援を行った。

(6) キャリア支援

- ・キャリアサポート部会が主体となり、キャリア支援クラウドサービスを利用した就職情報の一元化やオンライン面接ブースの設置など、就職支援の充実に取り組んだ。口腔保健学科においては、引き続き就職率100%を達成している。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学術誌への論文掲載数、科学研究費補助金の応募数、獲得数ともに目標を上回るなど、研究活動の充実に取り組んでいる。
- ・コロナ禍の中、医科歯科連携協定を活用し、地域の総合病院と連携した地域包括ケアシステムの構築に資する研究活動を継続して実施した。
- ・寄附講座において歯周病検診事業を展開し、県内事業所の就業者を対象に「歯周病リスク検査」を行い、被験者の口腔ケアに向けての行動変容を促すとともに、歯周病予防と全身疾患との関連にかかる研究を推進している。

3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・コロナ禍において活動が制限される中、県下の歯科医師、歯科衛生士を対象としたオンデマンド方式の講習会のほか、高齢者の摂食支援や医療的ケア児支援に関するWEBセミナーを開催するなど、地域貢献活動を幅広く推進している。
- ・北九州地域の地域包括ケアシステム構築に資するため、協定締結機関との連携を引き続き推進するとともに、北九州市内の救急小児医療機関の医師と医療的ケア児支援の歯科治療及び口腔ケアに関する連携について意見交換を行うなど、小児版・地域包括ケアの検討を進めている。
- ・コロナ禍における国際交流推進の取組みとして、学生の海外短期派遣プログラムに代えて、タイ、台湾の大学との間でオンライン国際交流プログラムを実施した。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学生の健康管理を充実させるため、教員、保健師及びカウンセラーで情報共有を行い、学生指導に繋げた。また、健康管理センターを設置し、担当保健師を配置して教職員の健康管理を充実させる体制を整備している。
- ・文部科学省の事業を活用して、電子カルテと連携した資料作成システムを整備し、患者の症例を用いた治療計画の立案をデジタルアーカイブシステムに組み込み運用できるようにするなど、臨床教育活動を充実させた。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・全学説明会で理事長自ら決算状況を説明し、大学全体で適正な予算執行に努めているほか、電子カルテシステムを活用し、データ解析に基づく病院経営管理を行っている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・内部質保証委員会を中心とした内部質保証体制を構築し、教職員、学生及び卒業生に対するアンケート結果や外部評価を、教育の改善や大学の方針決定に反映できるよう取り組んでいる。
- ・大学ホームページや広報誌の充実を行い、教育研究情報を適切に公開している。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡女子大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、5事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和4年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（地域貢献及び国際交流）について「特筆すべき進捗状況にある」、5項目（教育、研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

福岡女子大学では、英語教育や実践的能力を養う体験学習を拡充するとともに、文理統合型教育や女性のキャリア形成のための教育プログラム等を実施するなど、特色ある教育を展開している。令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響が継続したが、海外短期研修の実派遣を3年ぶりに再開し、併せてオンラインによる学生の国際交流を推進するなど、教育研究の維持向上に取り組んでいる。特に、新たに設立した女性リーダーシップセンターにおいて、研究基盤を整えたほか、社会人女性のための高品質のキャリアアップ・プログラムを実施し、女性活躍の推進に貢献する取組において成果を上げている点はきわめて優れていると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の令和4年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡女子大学は、令和5年に創立100周年を迎え、社会から高く評価される大学づくりに全力で取り組んでいる。引き続き、国際的な感性を持ち、主体的に活躍できる女性の育成を目指し、構築した内部質保証体制を機能させながら、実効性の高い取組を一層進められることを期待する。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

(1) 学士課程

- ・新たなカリキュラムが、クォーター制を活かし学生の主体的な学びに繋がっているか点検したほか、令和5年度の「上級英語」開講に向けた準備を行うなど、教育の充実に取り組んでいる。
- ・英語教育を「学術・キャリア英語プログラム」に再構築するとともに、担任制度を導入して学習習慣の形成と継続ができるような指導体制を整備するなど、英語教育の改善に取り組んでいる。
- ・グローバルリーダー副専攻プログラムを開始したほか、リーダーシップ向上を目的とした学内委員会への学生参画を推進し、活動の振り返りの機会を設け、その成果の発信を行うなど、女性リーダー育成教育を実施している。
- ・認定留学対象プログラムの拡充や留学説明会のオンラインでの実施のほか、137名の交換留学生の派遣を行うなど、国際性豊かな学習環境を提供している。
- ・「国際学友寮 なでしこ」に新入生全員を入寮させ、学生主体の企画活動や、寮運営に参加する学生向けの研修を実施するなど、教育の場としての寮体制を充実させている。
- ・新カリキュラムに「文理統合型科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を開講して文理統合型教育を推進するとともに、副専攻プログラムを拡充させるなど、学生の多様な学びを充実させた。
- ・食・健康学科において、実験機器等を整備するなど、専門教育の充実に取り組むとともに、管理栄養士国家試験の合格率が5年連続で100%を達成した。
- ・県庁舎内にある県民レストランのヘルシーメニューの開発・提供に、食・健康学科の学生を参画させるなど、大学で学んだ知識を発揮する機会を設けて、学生の学びに繋がった。

(2) 大学院課程

- ・人間環境科学研究科においてオムニバス形式の講義を行ったほか、人文社会科学研究科の演習において、様々な研究分野の教員との質疑応答を行うなど、大学院教育を工夫して学際的な研究課題への取組を推進している。

(3) 教育活動の活性化

- ・目標を大きく上回る回数のファカルティ・ディベロップメント（FD）を行ったほか、各部署による自発的なFDが数多く実施され、教育活動の活性化が行われた。

(4) 意欲ある学生の確保

- ・コロナ禍において、昨年に引き続き、人数を限定した来校型のオープンキャンパスを行ったほか、高校教員を対象とした大学概要説明会をオンラインで実施するなど、意欲ある学生の確保に取り組んでいる。

(5) 学修支援・学生生活支援

- ・学修ポートフォリオの改修を行い、主体的な学修支援体制の改善に取り組んだほか、留学生の専門課程の学習をサポートする支援を実施した。
- ・学生相談室についての情報を積極的に発信し、利用しやすい環境づくりに取り組んでいる。

(6) キャリア形成の支援

- ・学生が低学年時から就職に関心を持てるように、1、2年生向けの就職に関するワークショップを開催したほか、学生の就職活動状況に関する教職員の情報共有を促進するなど、キャリア形成の支援に取り組んでいる。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・若手研究者等を支援するため、研究奨励交付金の見直しを行うとともに、「女性リーダーシップセンター」及び「国際フードスタディセンター」における研究基盤を整えるなど、研究の活性化に努めている。また、学会発表数等も目標を上回っている。
- ・「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」の環境分野での枠組みを活用した共同研究を進めるなど、国際的な研究交流を

継続している。

3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を上回る取組や、地域に貢献する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・コロナ禍においても、女性のキャリアアップ支援のための「女性トップリーダー育成研修」や「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」を実施した。また、再就職支援のために実施した「女性のためのウェルカムバック支援プログラム」では受講生の雇用に繋がったほか、各プログラムとも受講生から高い満足度を得ている。
- ・出前講座やイングリッシュ・キャンプ等、高校との教育連携の推進や、生涯学習カレッジ、地域コミュニティとの連携事業等に取り組むとともに、図書館及び美術館において様々な企画展を行うなど、大学の知的資源を地域に還元している。
- ・コロナ禍以前と同等数の学生を派遣するとともに、オンラインを活用した交流プログラムを実施するなど、国際交流を推進している。また、海外大学との交流を充実させるため、豪州の大学と新たに学術交流協定を締結した。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学職員としての専門性を高めるため、新任職員や昇任した職員に対する研修会を実施したほか、教職協働の点から、教員対象の研修会にも職員が積極的に参加している。
- ・教職員及び学生に対する、標的型攻撃メールやWEBブラウザにおける誘導型攻撃への注意喚起を行うなど、情報セキュリティ対

策を進めている。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 科研費獲得セミナー実施のほか、科研費獲得者によるピアレビューや採択申請書の閲覧等、科研費獲得に向けた支援を継続し、一定の収入実績をあげている。
- ・ 時間外勤務の管理を行い、人員配置を工夫するなど人件費の適正化による経費節減に努めている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 「女性リーダーシップセンター」及び「国際フードスタディセンター」の設立に合わせ、最新の情報が届けられるよう大学ホームページを改善するとともに、100周年のプレイベントや100周年を素材とした広報誌を作成し、積極的な広報の推進を行った。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、5事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和4年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（地域貢献及び国際交流）について「特筆すべき進捗状況にある」、4項目（教育、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」、1項目（研究）について「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

福岡県立大学では、「学生ファースト」の理念に基づく内部質保証体制のもと、専門的職業人としての能力の育成はもとより、社会の変化に対応できる汎用的な資質・能力を身に付けるための全学横断型教育プログラムの充実に取り組み成果を上げている。令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響が継続したが、引き続きeラーニングやオンラインによる国際交流を進めるなど、教育研究の維持向上に取り組むとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターの運営や看護師の特定行為研修の実施など地域貢献活動にも取り組んでいる。特に、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談支援や学生サポート活動、不登校児童生徒の社会的自立支援に向けた取組において、顕著な成果をあげている点はきわめて優れていると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の令和4年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で優れた成果をあげている。引き続き、地域貢献活動等の取組を一層推進するとともに、構築した内部質保証体制を機能させながら、教育研究の更なる充実に向けた取組を推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的には年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
 - ・保健・医療・福祉の各分野の専門的知識を包括的に学ぶことができる「多職種連携プログラム」を開始したほか、「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付要件を整えた。
 - ・必要に応じて遠隔授業を実施したほか、教養演習教科書の改訂や習熟度別英語クラス編成の準備を行うなど、教養教育の充実に取り組んでいる。
 - ・人間社会学部において、幼稚園教諭一種、保育士資格に関する新たな科目を設置するほか、高等学校（情報）の教育課程を開始するなど、カリキュラムを充実させた。
 - ・看護学部において、看護実践力を強化するため、学内に演習用施設を整備し、学修環境の整備に取り組んだほか、令和4年度から開始した学修証明書発行プログラム「ケアリング・ナーシングプログラム」の新規選択科目である「ケアリング・ナーシング演習」を開講した。
 - ・保健師、社会福祉士、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。
- (2) 高度専門職業人の人材育成
 - ・大学院生を対象とした満足度調査や座談会を実施し、学生の意見を積極的に取り入れるとともに、人間社会学研究科において、新設科目を実施するなど、大学院教育を充実させた。
 - ・助産師国家試験合格率が例年に比べて低いことから、課題の分析と対策の検討を行う必要がある。
- (3) 教育活動の活性化
 - ・教員を対象としたeラーニングに関するセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントを推進するとともに、アセスメント・プランに基づき、学生アンケート等の各種分析結果をまとめ、各学科・コース毎に学位レビューを作成し、

教育活動の活性化に取り組んだ。

(4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

- ・オンラインと対面によるオープンキャンパスや個別相談に加え、学部やサークルの紹介動画を活用して入試広報活動を行ったほか、西田川高校生徒の受講の受け入れや出前講義により、意欲ある学生の確保に取り組んでいる。
- ・人間社会学部の学校推薦型選抜において、令和5年度入試から、新たに「社会的養護を必要とする者」を対象とした特別枠を設けた。

(5) 学生の学修支援と生活支援

- ・eラーニングシステムをMoodleに更新して積極的に活用し、学生利用率も上昇した。
- ・成績不振の学生に対して教職員が連携して個別支援を行うとともに、障がいのある学生に対して修学上の支援計画を決定し対応するなど、学生の学修・生活支援体制を充実させた。

(6) キャリア支援

- ・キャリア形成支援関連科目やプレ・インターンシップ等を充実させるとともに、インターンシップが活発に行われる時期の前後に大学独自のガイダンスを行うなどキャリア支援に取り組み、就職率が高い水準を維持している。

2 研究

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

研究については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおりに進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・研究水準を向上させるため、研究奨励交付金における若手奨励研究の新規募集枠の拡大を行った。
- ・福岡県国民健康保険団体連合会とデータ分析の共同研究事業に関する業務協定を締結した。
- ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率が低下しており、体制の整備に取り組む必要がある。

3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を上回る取組や、地域に貢献する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師、社会福祉士等の資格・免許保持者等を対象に、専門分野を深めるためのリカレント教育や研修を実施している。また、看護師の特定行為研修を実施し、7名の修了生を輩出した。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターの相談件数が4,100件を超えているほか、キャンパス・スクール事業における登校開始率が過去最高を更新した。さらに、不登校児童生徒社会的自立支援事業では、モデル校での不登校情報の分析や支援方法の提案を行うなど、不登校・ひきこもりへの積極的な支援により、地域に対する包括的支援の充実に取り組んでいる。
- ・交流協定締結校との教員交流や学生の短期研修プログラムをオンライン実施するなど、国際交流を充実させた。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・各種証明書の発行を行う部署を、就職・キャリア支援及び奨学金受付等を担う部署がある学生支援センターに移設し、学生窓口を一本化した。
- ・職員の研修体系の見直しを実施するとともに、学外研修を積極的に推奨することにより、職員の資質向上を行う体制を整備した。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 科学研究助成事業に関する研修会を開催するだけでなく、当該研修会を録画し、教員がいつでも確認できるようにするなど、教育等に関する外部資金の獲得に取り組んだ。
- ・ 試験会場として有償で貸し出しを行い、大学施設を有効に活用した。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ I R推進室及び内部質保証・サイクル推進会議により構成される I Rサイクル総合会議が中心となり、学生の意見を把握し、教育の改善に取り組んでいる。
- ・ 高校訪問、入試説明会、出前講義の機会を通じて大学情報を広く発信しているとともに、学生や地域住民に向け、大学ホームページを活用して学内情報を公開した。